

## 夢洲と環境アセスメント

写真は年末に撮った大阪万博会場予定地・夢洲。万博協会に送った環境アセスメント方法書に関する「意見書」の後半を紹介する。



### 第2章 地域の概況

#### 社会経済・生活環境・自然

環境・社会的文化的環境について、それぞれ総花的にまとめられている。既存の文献や資料による精査を求めたい。会場予定地の夢洲では現在、大阪湾の「一大コンテナターミナル」が稼働している。大阪府市によって、「夢洲まちづくり基本方針」も策定されている。稼働中のコンテナターミナルと「夢洲まちづくり基本方針」、IRを中心とした国際観光拠点についても、その概況を記載すべきである。

コンテナターミナルや IR、さらに夢洲へのアクセスは、万博アセスにも大きな影響を及ぼすものとする。愛知万博アセスの基本方針に「長期的な地域整備事業の環境影響評価との連携を図る」とあるが、これは大阪万博アセスでも忘れてはならない方針だ。この点にも関わり、万博会場の跡地利用に触れられていないのは問題である。愛知万博では跡地利用が「住宅開発」であることに対し、BIE が激怒して会場変更につながった。大阪万博では IR という名のカジノが、跡地にも拡張されると言われ、万博アセスでも注視しなくてはならない。

方法書との関連では、23 ページの交通の中に、コンテナ船の入港状況などを具体的に記載する必要がある。また、夢洲が大阪湾の人工島であることから、65 ページ以降の環境保全関係法令等に「瀬戸内海環境保全特別措置法」も加えて、関係する環境保全措置などを明記すべきである。

### 第3章 事業計画に反映した環境配慮の内容

大阪市環境影響評価条例に基づく環境配慮の内容だけでなく、大阪万博という 2800 万の入場者を想定する国際イベントにふさわしい、既成の枠にとらわれない広義の環境アセスを求めたい。ここでは、次の 2 点だけ指摘しておきたい。

夢洲という人工島、現在も埋め立て中の会場予定地に特有の環境アセスが欠かせない。ゴミ処分地として造成されてきた経緯を踏まえ、夢洲の地質や土壌、地盤、地下水などを綿密に調査して、環境影響評価する必要がある。大阪湾の夢洲は南海トラフ巨大地震による津波、スーパー台風による高潮などの災害が懸念されている。万博の性格や事業計画とも関連して、こうした災害リスクに関わる影響評価項目も加えるべきである。

第 4 章の環境影響評価の項目、調査、予測及び評価の手法、第 5 章の環境の保全及び創造の考え方にも、第 3 章で指摘した点に留意して、加筆修正してもらいたい。

(2020 年 1 月 8 日)